

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472300052		
法人名	社会福祉法人あぶくま会		
事業所名	仙南ジェロントピア高齢者グループホームリリーハイム		
所在地	宮城県伊具郡丸森町舘矢間山田字市子沢1		
自己評価作成日	平成24年7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然環境の中、入居者が自分のペースで穏やかに生活できる様に支援しています。家庭的な雰囲気「自由に、のんびり、一緒に、楽しく」過ごしていただけるよう職員間で話し合い、創意工夫し入居者の安心できる場所作りにつとめています。また、各入居者が出来る範囲で食事の準備や後片付け、掃除、洗濯など身の回りの事をさせていただくと共に畑作りなどでは職員が教えていただき畑の手入れ、収穫を通し「入居者と職員」が一緒に行った喜びを感じて貰えるようにつとめている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成11年3月に県内で4番目に開設したホームは今年で13年目になる。山々に囲まれ、趣のある建物、管理者、職員の人柄が表れてか入居者はゆったりと過ごされ、まるでペンションであるかのように。運営推進会議は2ヵ月毎に開催し、重度化、看取りにおける成文化はホームの姿勢がはっきりしており、その旨を成文化し家族に説明する段階までに至った。災害対策の地域住民の協力体制は環境的に難しい所はあるものの併設施設との連携と、民生委員の協力で地域に呼びかけようとの姿勢等目標達成計画を確認した。質の良いサービスに向けたケアをするべく管理者、職員は意欲を持っており期待したい。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成24年9月4日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 仙南ジェロントピア高齢者グループホームリリーハイム)「ユニット名

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に運営理念をふまえ介護にあたるよう職員間で実践に繋げるよう話し合っている。	理念は外部評価を機に見直し、職員間で話し合いを持ち継続とした。理念を掲げることの意義を全職員間で話し合い理解し、ケアに反映されているか振り返る等、再度すり合わせをし取り組むことを期待したい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設立地場所が周辺と接点がなく、思うように交流が図れない。	環境から見て地域との交流の難しさを感じたが、併施設設間との交流がなされ、ボランティアの受け入れ等にも協力しあっている。さらに民生委員にお願いし地域交流を図り、サービスに取り入れるべく努力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の開催		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・地域・行政にとって、意見交換の大事な場になるように会議を進めるようにしている。その場で出た意見を実現出来るように努めている。	2ヵ月毎に開催し、地域包括職員の参加もあり6回開催している。メンバーに入居者、家族代表、民生委員が参加し、ホームの現状報告と参加者から防災関係の意見等が出され、備蓄を見直す等改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あまり密な連絡関係は築けておらず、こちら側からの協力要請を積極的に働きかけたり、市町村担当者のもとに出向き関係を築く努力が必要と思われる。	行政の直接の関わりは少なく、制度的な情報等は管理者がインターネットから得ている。地域包括支援センターは、運営推進会議に参加し、地域の情報提供、入居者にまつわる相談等協力的でありサービスに反映させている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によって入居者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを目指している。	月1回合同で研修会議があり、職員は拘束における弊害を理解している。広いホーム内を自由に歩き行動の制限もなく、入居者の様子を見ながら適宜職員が関りを持っていた。玄関は施錠せず併施設設間の協力もあり、見守り対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等で虐待の防止の意識と理解を深め、常にそのことを念頭に置き業務にあたるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特別に機会を設けて学んではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分理解してもらえるよう説明し、納得していただけるようにしている。施設への理解をしていただき、又、入居者の方の今までの暮らしやケアの継続が出来るよう情報交換を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で入居者本人の求めている事を引き出すようにし、出来るだけ不満を解消するように努めている。	面会時等に意見、要望を聞き、直接話される方が多い。部屋の掃除の要望に関しては週1回、曜日を固定し、各居室を職員、入居者で掃除をしている。要望等には早い段階で職員間で話し合い応じるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	問題点や意見を聞き早急に対応するようにしている。会議等では日々見落とし等について話し合い、より良いケアが出来るよう努めている。	入居者に関する意見や台所設備(ガスレンジ等)に関する事や暑さ対策における要望があった。話し合いを持ち入居者にとって住みやすい環境づくりに向け、サービスに反映する様取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考査制度への反映、個人面接等で各職員の意見を聞くことに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会参加者から他職員への研修など充実をはかりたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほとんど外部同業者、事業所との交流機会がない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に入所前施設見学等に来ていただいているが、なかなか初期段階で本人からの要望は少なく、大半はご家族の意見を介してご本人との信頼関係構築に反映させている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取り時点で良く話を聞き、ご家族が何を施設に要望しているのか、施設側がどういった事に対応出来るのか説明させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケースによってはケアマネジャー等と相談し話しを進め、必要に応じたサービスを説明させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に各入居者の出来る事はしていただき、出来ない所は職員と共にしている。していただいた際は感謝の言葉、労いの言葉を忘れない様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	各入居者の日頃の状態を詳しく家族に報告し、現在の状態を分かっていたらよいよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設への面会等は特に規制なく来ていただいている。外出に関しては家族の方に対応していただくことが多い。	家族、知人の面会を尊重し家族間の難しさもあるが馴染みの関係を大事にしている。入居して知人と再会し親しくなり、職員よりも入居者同士でスムーズに事が進むこともある。今後もその関係性を見守っていきたい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なかなか入居者同士のみで関係を築くことは難しい為、職員が間に入りその時々に合わせて対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望に応じ退所後の相談にあたっている。併設の特養に入所する方が多いので特養職員の相談に応じたり本人の面会に行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	バックグラウンドアセスメントを利用している。本人からの聞き取り困難な場合は家族等に十分聞き取り行うようにしている。	情報をもとに本人の思いに寄り添ったケアを心がけている。毎日少量の晩酌や一日6本の喫煙、畑作り、裁縫(雑巾縫い)編み物、花を眺める等計画書に反映し状況に応じた環境を整え支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申込時から詳しく聞き取りし、出来るだけ把握できるように努めている。バックグラウンドアセスメントの活用。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時より出来るだけ細かく行動記録を取り、全職員がその行動状況を把握出来る様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人を尊重し作成しているがより客観的で具体的な介護計画作りを目指して。	バックグラウンドアセスメントをもとに日常のケアの様子を加えて計画書に反映している。定期的な会議でカンファレンスを行い、6か月毎に見直し家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を具体的に記述し全職員が情報を共有出来るようにし、気付いた点や改善点については日々のミーティングや会議等で迅速に話し合うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに可能な限り対応出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ協力していただけるように働きかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は基本的に入所前から通院している医師を継続して受診している。不調の際は併設特養ナースや家族と良く話し合い適切な受診が出来るように支援している。	通院は家族対応を基本とし、情報はその都度文章にし家族に渡している。家族からの連絡は業務日誌に記録し職員間で共有している。協力医は入院設備もあり24時間連絡可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養看護師に状況、状態を報告し指示やアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院によっては家族以外へ情報提供してくれないところもあり、家族を仲介して情報を得ているのがほとんどである。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態変化や加齢により重度化した場合の終末期の支援に関して、利用者や職員間における対応方針の共有化の構築をする。	介護度が上がる、入居者の状態低下等を考慮し、住まいを特養に移れるよう連携が取れている。それらを「入居者が重度化した場合における対応に係わる指針」「緊急マニュアル」「重度化時対応希望書」3点を成文化した。家族に説明し、同意を得るよう進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会等で対応についての訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回併設特養と合同で実施。	年2回(夜間想定を含み)合同で実施した。地域住民の協力は難しいが併設特養と連携を取り、夜間帯等早急に駆けつける様最速の道順も確保してる。非常口の老朽化等課題も見えた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各々の話し方に合わせた声掛けをするように心がけている。各々のバックグラウンドを考慮し対応にあたっている。	排泄時の声掛け、誘導の工夫や「～さん」と名前を呼ぶ等一人ひとりを尊重し対応している。日常の衣類は自分で選ぶ、痛んだ衣類は家族と相談し入れ替える等いつもきれいでいられる様に配慮し支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択の場面は設定しているものの、自己決定というより職員が誘導してしまいがちになっているため、意識して「待つ」という姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れの目安はあるが、基本的には個々のペースに合わせている。食事時間等も体調等、その時々に合わせて臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装等は本人に決めて貰っている。髪型等も施設散髪ボラに本人より要望伝えて貰い出来るだけ本人の希望に添うよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各々の好みを把握し嫌いなもの等には代替え品等で対応している。又、病気等で食事制限のある方には、工夫出来るだけ楽しみにしていただけるように努めている。	冷蔵庫を見てその日の献立を決め、庭で採れた野菜等ふんだんに食材を使い、職員を中心に味見担当の入居者と共に作り、職員も一緒に食していた。献立表に記入し美味すぎて食べ過ぎない様に主食で調整している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の病気や体調に合わせた支援を心がけている。又、水分や栄養摂取状況が思わしくない方に対しては、必要に応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし口腔ケアに努めている。歯科医の訪問診療あり、その際相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着やパッド等各々に合わせたり、時間帯に応じて変えたりしストレスの軽減に努めている。	排泄は自立している方が多い。レベル低下と共に下着の汚れ等もあるがパッドを使用しない様、下着、便器の汚れを見逃さず清潔な対応を心掛けている。夜間のトイレは常時点灯にし、足元等の安全面に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の排便状況を把握し、その人に合った下剤の投与に努めている。十分な水分や軽運動で便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴日以外、発汗時、汚染時などは臨機応変に対応している。	浴室は広く、浴槽は一人対応になっている。手すり、浴槽内用椅子を使用する等状況に合った支援をしている。拒否する方へは「体重を計りましょう」等その人に合わせ工夫して支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の一日の流れを把握し、その人に合った休息時間を設定し休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が服薬に関して理解を深めるよう努めている。又、飲み忘れのないように目配り、確認を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の楽しみごとや役割を見だし場面を作るよう努力している。強制的にならないように注意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の消耗品、嗜好品の購入時に本人にも同行していただいている。遠方への外出に関しては家族に対応していただいている。	畑作りや敷地内の散歩、また併設しているデイサービス、ボランティアによる余興鑑賞、面会に出かけている。人員配置により、遠出の外出が困難であったが、日勤時間帯に一名多く配置し、不動堂尊まで皆で外出し喜ばれた。今後も支援していけるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある入居者はある程度の金額は本人に管理していただき、本人管理が難しい方については職員が管理している。外出時などに本人持ちの現金で買い物していただいたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話に関しては特に制限等はしておらず本人の希望に添うようにしている。携帯電話の持ち込みしている入居者も有り。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事に合わせたレイアウトを行うように心がけている。混乱を軽減できるように工夫している。	玄関を入ると清潔感があり好印象であった。窓から見える山々は居間で四季を感じる事が出来、落ち着く空間である。冷房、カーテン等でしっかりと暑さ対策をし庭の花を玄関、テーブルに飾り、カレンダー、時計が入居者の見やすい位置に掲示され随所に配慮が見られた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では各々落ち着く場所が有り、過ごしている。作業やその時の入居者の気分に応じて職員が誘導する事もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々のそれまで暮らしてきた環境を大事にした居室作りを心がけている。又、混乱の要因になる物などについては家族と話し合い改善に努めている。	全居室は東南に面しており、入居者はヘッド、畳の部屋に写真を飾る等思い思いの部屋作りをしていた。入口には色分けされた暖簾で居室がわかるようになっている。定期的に掃除がなされ清潔で居心地の良さを感じた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境を整備し入居者が安心・安全な環境になるよう工夫している。		